

第二十一回定期総会を終えて

白門経友会幹事長 風間俊範

第21回白門経友会の定期総会は2011年6月4日(土)多摩キャンパスで開催された。白門経友会は経済学部の教職員・学生・学員(卒業生)の三位一体の活動を通じて、学生の資質向上、中央大学の発展と会員相互の親睦と交流を深める事を目的とした中央大学学員会支部です。その活動の主なものに毎年6月の第一土曜日に開催する事

後に行う記念講演です。長年、研究している専門分野についての講義だけでなく、感想や感慨を含めた本音で話していただき、他ではあり得ない興味深い内容です。

今年度は、講師に渡辺俊彦教授を迎えて「中国、ナショナリズムの事情」という演題で講義をいただきました。会員にとても関心のあるテーマで、とても充実した時間であった。内容については、後日冊子にして配布いたしますので、楽しみにして下さい。

総会は、松丸和夫会長の挨拶後、議長に就任して議事に入つ

た。2010年度の活動報告書にはじまり、2011年度の活動計画、又決算、予算が満場一致で可決された。特に常任幹事の方々にはほぼ毎月1回会合を重ね、会の企画立案や主要な諸事項についての分担協力をいたしました。

今後もより多くの会員を増強する為に、諸先生方のゼミOB.

OG会の学員や新卒業生への呼びかけと共に、この他にないユニークな白門経友会の活動に多くの参加をいただくべく努力していきます。

又、事務局に学部事務室の鈴木英之事務長の献身的な協力により諸連絡がスムーズにいくついる事を付け加えさせていただきます。

このようにして、学部授業「キャリアデザイン」や「インターンシップ」への協力をはじめ、最初に述べました教職員・学生・学員との交流会合に楽しんでおりますので、多くの会員の参加を望みます。

白門経友会

「多摩キャンパス散策」



駿河台校舎の中庭にあった「青年像」は正門から校舎に向かうアプローチの左側に設置されています。



10月になると白門祭に向けて学生達の活動も活発になります。

多摩キャンパスのビオトープを訪ねて！

10月初旬、多摩キャンパスの湧水エリアを散策しました。



中央大学創立125周年経済学部企画事業として黒須詩子経済学部教授が中心となり「湧水を中心とした多摩キャンパスの生態系の保全とビオトープの確立」が昨年実施されました。この事業は計3回のシンポジウムとキャンパス内にある湧水を中心としたビオトープとして保全・再生することにより生態系の復元のための整備という2部構成で実施されました。

シンポジウムは「多摩丘陵の自然保護、これまでとこれからの展望」というテーマで開催されました。

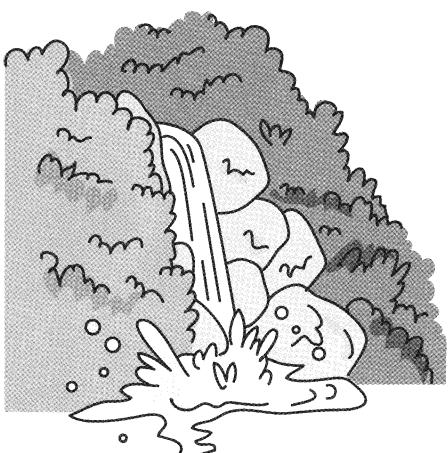
多摩丘陵の自然保護にかかわり続けた方々を講師にお招きし、多摩丘陵の自然史について講演頂き、今後の環境保全の進め方について考えました。中央大学は八王子市東中野に所在しますが、この地は以前、東中野谷津入という字（あざ）名で呼ばれておりました。

いくつかの谷戸がありそれぞれからの湧水は豊富で谷戸の奥まで水田があり、小動物・小魚や昆虫達にとっても住みやすい環境が整っていました。多摩キャンパスの硬式野球場の奥に湧水があり、水量も多く蛍も生息しています。

このエリアは校地として開発された時も手が入れられず里山の景観が留められておりました。今回の事業ではあまり大きな工事はせず、更に動植物の保全にとって良い方法がとられました。遊歩道も整備され余分な所へ足を踏み入れずに済む保全と観察がしやすい状況になっております。ここに来ると周囲は自然音で、せせらぎの音、木々の葉が風にそよぐ音が安らぎの時をくれます。

この湧水はキャンパスを出ると、谷津入川から大栗側を経て多摩川に合流して東京湾へ注いでおります。

四季折々表情を変える多摩キャンパスの自然を訪ねてお出かけ下さい。

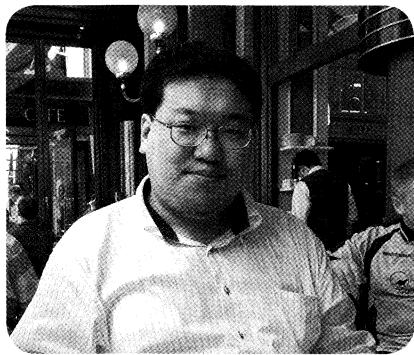


キャンパスの付近には、水田が耕作されており、大学からの湧水も一役果たしております。

経済学部に戻つて

経済学部准教授 丸山 佳久

え、あの先生が…シリーズ⑨



さま私のことを記憶に残していただけます。

東京に戻つてきての最初の感想は、「東京は人が多すぎる」というものでした。降り立つた東京駅では人にぶつからずには歩けないし、中央線に乗り換えて八王子に向かうと、どこまでいつても市街地が途切れない。すっかり「おのぼりさん」になつたわけですが、立川でモノレールに乗り換え、多摩川を過ぎたあたりから草のみどりが増え、多摩動物公園を越え、中央大学ままでしたが、一緒に学んだ友人たちの姿はなく、歳月の流れを感じました。

はじめまして。丸山佳久と申します。母校・中央大学経済学部に今年二〇一一年四月に戻つて参りました。身長は一八〇cm、三桁の体重のある巨漢です。自己紹介をすると、名字の丸山が体を表わしているためか、みな

会計士の勉強をはじめて会計に興味を持ち、三年次には故原田富士雄先生の社会会計の専門ゼミに入りました。原田ゼミで取り上げたテーマが「環境会計」です。環境会計は現在まで続く私の研究テーマであり、私が中央大学で担当している講義科目の名称です。専門ゼミで出会つた環境会計を、今度は私が後輩たちに教えることになりました。

博士前期課程が終わる頃には、公認会計士の世界よりも研究者になりたいという気持ちが強くなり、そのまま私は博士後期課程に進学しました。原田先

生のご年齢の関係で、後期課程では指導教授がかわり、小口好昭先生にお世話をなりました。後期課程は4年次でいつたん退院後、また環境会計を、今度は私が後輩たちに教えることになりました。

そうこうしているうちに完全にバブルがはじけ、就職氷河期に突入していました。私は会計士試験に何とか合格できました。が、今度はそうすると、もう少し経済や会計の勉強を続けたいと考えるようになりました。進路に悩むようになりました。当初の予定通り監査法人に入ろうか、それとも少し寄り道して大学院に進学をしようか。原田先生に相

談をしたところ、「大学院で会計の勉強をしたいのなら、ぜひとも中央大学大学院経済研究科に進学をしなさい、自分が面倒でもうんサーカルにも所属し、とても慌ただしく充実した大学生活でした。

博士前期課程が終わる頃には、公認会計士の世界よりも研究者になりたいという気持ちが強くなり、そのまま私は博士後期課程に進学しました。原田先生のご年齢の関係で、後期課程では指導教授がかわり、小口好昭先生にお世話をなりました。後期課程は4年次でいつたん退院後、また環境会計を、今度は私が後輩たちに教えることになりました。

そうこうしているうちに完全にバブルがはじけ、就職氷河期に突入していました。私は会計士試験に何とか合格できました。が、今度はそうすると、もう少し経済や会計の勉強を続けたいと考えるようになりました。進路に悩むようになりました。当初の予定通り監査法人に入ろうか、それとも少し寄り道して大学院に進学をしようか。原田先生に相

編集後記

暑さ寒さも彼岸までといいますがここ数年いつまでも暑く、それでいて一気に寒くなり長い夏と短い秋、間もなく冬になってしまいそうですが、東日本大震災で被害を受けた方々にとっては厳しい季節となりますね。少しでも早い復興をお祈りし応援したいと思います。